

ぼくが作曲できない理由(わけ)

どこの世界も同じでしょうが、作曲家なんていうのもかなり因果な商売なんです…

今日も朝からいそがしい

土日祝日休みなく

売れっ子なんだか便利屋だか

ぼくの人気も実力も

はじけるその日は――

「センセイ」「センセイ」

「オ疲れサマデス」「オ疲れサマデス」

「あー、もしもし」

来た……

メ切りを十日も過ぎて

ひとふしだつて書けてないとは

口が裂けても言えやしない

「あ どうもすみません最後のところだけちよーっと残ってまして

あと二日いただきたいんですが」

ソパ屋の出前か、聞いてもアテになりやしない、天気予報や競馬の予想、毛はえ薬にヤセ薬、国民年金ガソリン価格、あの娘の得意の「またこちらから連絡します」「あれから三月も待つてんだよね」、金銀メダルの皮算用、大統領選下馬評と、どれもぼくよりアテになる。

「サボつてたわけじゃないんです」

でもなんかねえ この歌調が

源氏？ 宇治十帖？ ミレニアム？

こんなの誰も知らないでしょ？

〈ありとみて 手にはとられず 見ればまた

ゆくへも知らず 消えしかげろふ〉

…十二時…二時…ダメだあ

「サボつてたわけじゃないんだよなあ」
考えて考えて なにがいいやら悪いやら
なにがなんだかわかんない（イライラ）
話まるどころが食っちゃ寝で（イライラ）
メタボ街道まっしぐら

どっかからミサイルでも
とんで来ねえかなあ

…三時 四時 ああ吐きそうだ なんとかしてよ

四時半 五時 うーん

—よし これでいこう

「たいへん遅くなりました」

「なんか物足りないなあ
も少し前衛的にできないの？」

（イヤでもこれ源氏だし）

「それじゃ古風さが足りないよ」

（前衛的で古風ってなによ）

「やー、なんか爽やかじゃないな」

（そりゃ爽やかにならないでしょ）

「もうチョットしっとりしてさ」

「そんなのできるかー！」

「でもってグアーっと四次元的に」

もう出さない

今日がぼくの命日だ
ぼくにないが

—ありと見て

なにが足りない？

——手にはとられず見ればまた

ぼくの何千何百何十時間が
ぼくの心が

——ゆくへも知らず

ちりと果てたも

ぼくゆえに

うぬぼれて おそれ

臆しては てらい それも

たましい たましいの弱きゆえ

——消えしかげろふ

ああぼくはおまえになにができよう

ここに男がひとり

夜中の街をあてもなく

どこをどうして歩いたか

いつしか道は上り坂

こんな坂道ごときにも

前にのめつてとぼとぼとぼ

うつむく額のその先に

坂のおわり 夜明けの空

一歩踏み出し広がる彼方

一歩 一歩踏み込む空のあざやかな

もときた道さえあざやかな

そうだよっぱりぼくは作曲する
